

1 本年度の学校評価を振り返って

本学院の地域協働活動（ビダイフデザインラボ）を中心とした、諸活動の充実を挙げることができる。今後も、地域学校協働委員会のご協力をいただきながら、できる限り地域の諸行事やボランティア活動等に参加し、生徒の自己有用感の育成に貢献していきたい。

また、生徒作品展「明日のクリエイターたち」では、1,000人近くの来場者を得ることで、生徒の日頃の制作活動を展示作品や生徒解説を通して理解いただくとともに、日頃の生徒の活動への称賛をいただき、生徒の自己肯定感を大いに高める機会となった。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策
教育課程・学習指導	自己有用感を育む教育活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・美大附デザインラボを中心に、デザイン制作やボランティアなどの地域協働活動を通して自己有用感の育成を図った。生徒が自信をもって作品をプレゼンしたり、他者意識を取り入れた企画が見られたりするなど、意欲や資質向上につながった。 ・授業をはじめとした日常の教育活動を通じた自己有用感の育成の在り方について、研究を深めていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相互利益の考え方を基に、生徒の自己有用感の育成を目指して地域協働を今後も継続する。 ・授業などにおいて学びの価値付けによる自己肯定感の醸成を基板として、自己有用感の育成を図っていきたい。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回のいじめアンケート調査や生活意識調査、個別の手帳等の活用により、生徒の内面をきめ細かく把握し、生徒の困り感や不安感に早期に対応するとともに、少人数であることを生かして個に寄り添う指導を推進した。 ・他校の情報や研修の内容を全教員で共有し、学校・生徒指導を取り巻く環境の変化に対応するための情報をアップデートすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観や生き方が尊重されるようになり、問題の質や量、内容に変化が起きている。生徒を多面的に支援するためにも、これまで以上にチーム支援を意識し、専門の関係機関や地域と協力して対応する。 ・入学当初の特別研修や日々の授業、行事等を活用し、コミュニケーションスキルを高めたり、互いのよさや違いを認め合ったりする機会を設ける。
進路指導	主体的な進路選択を目指す計画的・組織的な進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで紙に印刷して配布していた「進路指導だより」を、HPに情報を載せ、更新するたびに生徒や保護者にお知らせした。このことより、学年の違う生徒や保護者といった立場による進路情報へのアクセシビリティに差が無くなった。これに加え、例年行っている進路関係の行事や、教務部会等での職員間での課題の共有により、生徒の主体的な進路選択を支援する計画的・組織的な体制ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・より主体的に進路選択ができるよう、引き続き模擬試験デジタルサービスを活用して復習に取り組みせたり、業者テキストを採用したために廃止した学院オリジナルの「進路のしおり」を復活させたりすることで、自己理解に基づいた目標達成のための具体的な手立てが分かるようにする。
家庭・地域との連携	社会性を育む地域協働活動（ビダイフデザインラボ）の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの5類移行後、多くの地域のイベントが再開され生徒たちが校外で活動できる場面が増えた。（ものまちなさんぽ、土崎港祭り人形制作、新屋雪まつり等）、地域と協働しながら生徒たちの自主性や自己肯定感を高める活動を充実させることができた。 ・内容によっては授業の中で完結させることで、生徒や教員の負担感の軽減を進めていく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組んでいる事業やプロジェクトについては、担当する教員の分担を精査し、計画・実施をしていく。 ・新規プロジェクトについては、時期や内容の精選を基に、生徒の学習や、教員の業務に支障を来すことがないように計画・実施を進める。